様式第１７（第４２条関係）（第一面から第三面まで）

|  |
| --- |
| 認定更新申請書  申請年月日　 　2023年　 9月　15日    　　経済産業大臣　殿  （ふりがな）びぷろじー  一般事業主の氏名又は名称　ＢＩＰＲＯＧＹ㈱  （ふりがな）ひらおか あきよし  （法人の場合）代表者の氏名　平岡　昭良　印  住所　〒135-3560  東京都江東区豊洲１－１－１  法人番号　　2010601029542  　情報処理の促進に関する法律第３２条第１項の認定の更新を受けたいので、下記のとおり申請します。 |
| 記  情報処理システムの運用及び管理に関する指針に関する取組の実施状況  　(1) 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | 統合報告書2022 | | 公表日 | 2022年　10月　17日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  P.16-17　BIPROGYグループの価値創造  P.18-19　Purpose/Vision2030  P.28-29　「経営方針（2021-2023）」で目指すこと | | 記載内容抜粋 | 【Vision2030】  BIPROGYグループは、社会変化に対する先見性と洞察力、ICTを核としたテクノロジー、そしてさまざまなビジネスパートナーとのビジネスエコシステム形成を掛け合わせ、ICTサービスの提供だけにとどまることなく、これまで推進してきた、社会を豊かにする新しい価値の創造と社会課題の解決の取り組みを加速させ、社会的価値創出企業に変革していくことを「Purpose」として定めています。そして、2030年に向けて、当社グループが果たしていく役割や存在意義を表し、長期活動を推進していくための私たちの想いや決意を込めたものが、「Vision2030」です。  【経営方針（2021-2023）】  BIPROGYグループは、「Purpose」および「Vision2030」のもと、社会的価値の創出を追求することを通じて経済的価値の創出を図り、グループ全体の企業価値を持続的に向上させる次なるステージに向け、2021年度よりスタートした「経営方針（2021-2023）」を策定しました。  「経営方針（2021-2023）」における基本方針として、お客様の持続的成長に貢献する顧客DXの推進「For Customer」と、さまざまな業種・業界のお客様、パートナーと共に社会課題の解決を進める社会DXの推進「ForSociety」を定めています。DXを推進するお客様のベストプラクティスを積み重ね、社会のためにDXを推進し、社会全体を捉えた大きな枠組みで、お客様やパートナーと共にビジネスエコシステムを拡大していきます。  【BIPROGYグループの価値創造】  当社グループの持つ「先見性・洞察力」と、強みとして根底にある「真摯さに裏付けられた実践力（やり抜く力）」により、ビジネスエコシステムを加速する価値創出サイクルを回すことで、持続的な価値創出を実現していきます。 | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 当該公表ドキュメントは経営会議承認の上、取締役会への報告プロセスを経て、公表を実施しています。  なお、アニュアルレポートに相当する開示資料は当社においては取締役会報告事項としています。 |   (2) 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | 統合報告書2022 | | 公表日 | 2022年　10月　17日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  P.27　経営方針（2021-2023）現在の経営方針／長期ビジョン  P.28-29　「経営方針（2021-2023）」で目指すこと | | 記載内容抜粋 | お客様の持続的成長に貢献する顧客DXの推進「For Customer」と、さまざまな業界のお客様、パートナーと共に社会課題の解決を進める社会DXの推進「For Society」の2つの考えのもと、社会課題を解決するビジネスエコシステムを拡大させ、「Vision2030」の実現につなげます。  ①For Customer  価値創出力の強化を図り、社会的価値の創出を通じて顧客の持続的成長に繋がるDXを推進する  ②For Society  多様な業界の顧客・パートナーとのリレーションシップやベストプラクティスを活かし、社会や地球全体最適で捉えたビジネス構想を実現する  ③風土改革  「Vision2030」の実現に向けて、価値創出力を強化するため、風土改革を推進する  ④投資戦略  先端テクノロジー活用とイノベーションの持続的な創出を目指しつつ、戦略投資を加速する | | 意思決定機関の決定に基づいていることの説明 | 当該公表ドキュメントは経営会議承認の上、取締役会への報告プロセスを経て、公表を実施しています。  なお、アニュアルレポートに相当する開示資料は当社においては取締役会報告事項としています。 |   　　① 戦略を効果的に進めるための体制の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  P.48　DXの推進  P.34-37　CFOメッセージ＞構造改革投資 | | 記載内容抜粋 | 【DXの推進】  当社グループは、「経営方針（2021-2023）」において、顧客DXと社会DXを両面から推進してパートナーやコミュニティと共にビジネスエコシステムを拡大させ、ビジネスのさらなるデジタル化に向けて社内改革を行うこと（社内DXの推進）を掲げました。その施策として、CDO（チーフ・デジタル・オフィサー）とCIO（チーフ・インフォメーション・オフィサー）のリーダーシップのもと、社内のIT戦略を推進しています。  【構造改革投資】  スキル、コンピテンシーを明らかにし、各人が持っている能力やスキルを可視化したうえで、複数の役割（ROLES）を持ってもらい、個人の中の多様性（イントラパーソナル・ダイバーシティ）を養うための施策を実施しています。それにより、一人ひとりの思考・スキルを変革し、イノベーションの創出につなげていきたいと考えています。  また、ビジネスエコシステムをさらに拡大させていくため、社会インパクトを自ら創出でき、事業創出に関する専門性をも備えた「ビジネスプロデュース人財」の育成にも注力する方針で、マテリアリティにおいても、2023年度に2021年度比で2倍とするKPIを設定しました。中途採用も含めて、今後、この分野の人財を増強していく考えです。 |   　　② 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示   |  |  | | --- | --- | | 戦略における記載箇所・ページ | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  ①P.42-43　知的財産戦略  ②P.48　DXの推進 | | 記載内容抜粋 | ①知的財産戦略  【戦略投資】   * 中長期的な視点で社会課題解決を推進するため、ICT 領域にとらわれることなく、革新的な技術を持つスタートアップに対する出資・協業を継続 * M&A 機会の積極的な探索と実行推進 * 共創的新事業※立ち上げのための投資を推進   【研究開発】   * 深い業界 / 顧客理解に基づきDX を加速させるサービス開発の強化 * 先端テクノロジーを基軸とした研究・開発の強化 * サービス型ビジネスを加速するサービス開発や技術力の強化   ②DXの推進  当社が主力事業としてきたシステムインテグレーション型開発の再整備では、エンジアリング部門に従来型受託開発の高度化とDX適用、プロダクト開発の研究開発機能を設置しています。また、多様なICTツール（業務基幹系システム、クラウドファーストなオフィスアプリケーション、モバイルファースト、Web会議システム、企業内 SNSなど）を活用し、コミュニケーション促進と生産性向上を図るとともに、イノベーションの創出につながる勤務環境の構築を目指しています。ゼロトラストによるシームレスなネットワークを構築し、知財を見つけやすくするために高セキュリティ機能を有したクラウドストレージを導入しているほか、社内照査プロセスの電子化および電子署名サービス導入なども推進しています。 |   (3) 戦略の達成状況に係る指標の決定   |  |  | | --- | --- | | 公表媒体（文書等）の名称 | 統合報告書2022 | | 公表日 | 2022年　10月　17日 | | 公表方法・公表場所・記載箇所・ページ | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  ①P.27　経営方針（2021-2023）現在の経営方針／長期ビジョン  ②P.22-25　マテリアリティ | | 記載内容抜粋 | ①2023年度目標  調整後営業利益率　　　　　　10%以上  売上収益　　　　　　　　　　3,400億円  　　うち、アウトソーシング　1,000億円  ROE　　　　　　　　　　　 　15%目途  配当性向　　　　　　　　　　40%目途  ②マテリアリティ   * 社会や地球を全体最適で捉えた社会課題解決型ビジネスを創出／拡大。当該案件数を2020年度比200%以上（2023年度） * 事業創出に関する専門性を備えた「ビジネスプロデュース人財」数 2021年度比2倍（2023年度） |   (4) 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信   |  |  | | --- | --- | | 発信日 | 2022年　10月　17日 | | 発信方法 | 統合報告書2022 < <https://pr.biprogy.com/invest-j/ir/pdf/ir2022.pdf> >  P.6-11　CEOメッセージ | | 発信内容 | ・2021年度の連結業績は売上収益および営業利益、調整後営業利益、当期利益とも前年度比増となり、増収増益を達成するなど、業績面では一定の成果を出すことができました。  ・初年度を振り返ると、お客様のDXを推進する「For Customer（顧客 DX）」および社会課題を解決する「For Society（社会DX）」につながる領域である「企業 DX 型」、さらに、「サービス型（事業創出型）」アウトソーシングの売上収益が拡大しており、DX分野でかなり力強い手応えを感じています。 |   　(5) 実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2019年　7月頃　～　実施中 | | 実施内容 | 代表取締役社長の指示のもと、経営会議および情報システム投資委員会の配下にて、CIO（チーフ・インフォメーション・オフィサー）である業務執行役員を中心に、デジタル技術に係る動向や自社ITシステムの課題把握を行っています。 |   　(6) サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施   |  |  | | --- | --- | | 実施時期 | 2022年　5月　～　2023年　3月 | | 実施内容 | 当社は、当社の情報セキュリティおよび個人情報保護に関するマネジメントシステムの総合的な点検及び評価を実施しています。監査基準は、情報セキュリティマネジメントシステム要求事項（JIS Q 27001:2014）、個人情報保護マネジメントシステム要求事項（JIS Q 15001:2017）および関連社内規程です。関連する法令等は、情報セキュリティ管理基準（経済産業省　平成28年改正版）、個人情報の保護に関する法律（改正法：2022年4月全面施行版）、個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン及びその他関連省庁のガイドライン、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドラインです。 |   （注）(1)～(3)の取組において公表先のURLを提出しない場合は次の①の書類を、(4)の取組において情報発信内容を確認できるウェブサイトのURLを提出しない場合は、次の②の書類を添付すること。また、必要に応じて③、④の書類を添付できる。  ①　(1)～(3)の取組における、公表を行っていることを明らかにする書類（公表先のウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ②　(4)の取組における、情報発信を行っていることを明らかにする書類（情報発信内容を確認できるウェブサイトの画面を印刷した書類等）  ③　(1)の取組における企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性、(2) の取組における戦略を補足説明するための書類（最新の情報処理技術の変化による影響を踏まえた観点から決定していることを説明する書類等）  ④　(5)～(6)の取組における、実施内容を補足説明するための書類 |

備考．用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とすること。

様式第１７（第４２条関係）（第四面）

（記載要領）

１．「申請年月日」欄は、経済産業大臣に認定更新申請書を提出する年月日を記載すること。

２．「一般事業主の氏名又は名称、代表者の氏名、住所」欄は、氏名については、記名押印又は自筆による署名のいずれかにより記載すること。一般事業主が法人の場合にあっては、住所については主たる事務所の所在地を記載すること。

３．一般事業主が法人の場合であって法人番号が記入されている場合は、一般事業主の氏名又は名称、代表者の氏名、住所の記載を省略することができる。

４．申請内容は正しく記載すること。認定更新後、虚偽または不正の申請を行ったことが判明した場合には、認定の取消し等所要の措置を講ずることがある。